

## ねじればね

Des. 1960

—通巻才9号—

昭和35年12月25日発行

編輯者 後藤光男

大阪府泉北郡高石町北609

日本甲虫学会

神戸市東灘区御影町天神山46

大倉正文方

前号にアンケートに対するお答えを到着順に載せましたが、その後次の方々からお答えが  
 りましたので披露いたします。アンケートの内容は

- (1) 自身で採集された最も古い標本(当時の年代も付記して下さい)。
- (2) 所蔵中の最も古い標本、又は珍しい方・著名な方の採集された標本。
- (3) 最も愛着をもつておられる標本、又は最も珍しい標本、或は珍談・奇談やエピソード  
 のある標本。

## ○ 白畑 孝太郎 氏(酒田市)

- (1) モンシロチヨウ 1♂, 7. VI. 1931, 山形県南村山郡宮生村大字宮脇, 筆者採集,
- (2) アボロシロチヨウ 1♂, 1913年 フランス。

この標本は生家に在つた頃、当時蝶の研究家として著名であつた中村俊先生から頂いた記念  
 の標本である。

- (3) イ. カミヤセスジエンマムシ 25. III. 1933, 東京都根津山, 田口万寿男氏採集。

昭和8年9月5日18才で天逝された氏は私の最初の虫友で、今日迄同氏から載いた標  
 本はこの1頭だけで、追憶限りないものである。

ロ. *Dactylotoma cimensis* ARAKI (オオキノコムシ科シググロオオキ  
 ノコ属) 2♂. VII. 1941, 中国山西省陽城県陽城, 筆者採集。桑の幹に生えていた菌  
 から5頭採集し、故荒木東次氏によつて新種として記載されたものであるが、タイプ標  
 本は戦災で焼失し今残つているのはこの1頭だけである。荒木氏も又天逝され、故人を  
 偲ぶ標本としても大切なものである。

- ハ. アカマダラセンチコガネ 9. VII. 1940, 米沢市南原, 黒沢良彦氏採集。

山形県下で採集された唯一の標本で、私にとつては文字通りの珍品である。

- ニ. ワイモンルリシジミ 1♀, III. 1945, 中国湖南省長沙県, 筆者採集。

1945年3月3日武昌を出発し湘潭に向う長期行軍の途中、枯草に止つた1♀を採  
 集したものであるが、私の歩いた限りでは長沙県内で見ただけである。

## ○ 坂元 久米雄 氏(鹿児島市)

- (1) 1936年9月4日 メスアカムラサキ♂

中学四年の時武岡(市郊外)で採集。この標本だけは額に入れてあつたため、戦災からまぬがれました。

- (2) 1911年6月6日 モウセンハナカミキリ♂

高隈山(鹿児島県)で岡島銀次先生(キシマミドリの命名者)の採集品です。

- (3) 1960年7月22日 オオシロカミキリ 2♂♂

磯山(市郊外)で今年の夏、息子(小学四年)を連れて夜間採集中飛来したものです。オオシロカミキリは私にとっては、まことにいわくのある虫です。つまり1936年8月中学四年の時試験勉強の為図書館に行つた際、館内の灯火に飛来したのをつかまえて、それ以来天牛を好きになつてしまいました。この標本は戦災で焼失しましたが、実に25年振りの採集だつたわけです。

○ 浦田 明夫 氏(対島)

- (1) 1953年10月6日 アオタテハモドキ 1♂ (長崎大学2年)

この年から本格的に昆虫採集をはじめたので、現存標本中最古のもの。

- (2) 昭和18年に台湾で採集された甲虫類をもっているが、標本が現住所にないので、最も古い標本としては(1)のアオタテハモドキである。

- (3) 苦労してとつた標本ほど愛着を感じるが、やはりなんといつても私自身が発見したツシマウラボシジミをオーにあげる。

その珍しい標本では、日本産のもので1頭しかまだとれていないチヨウセンオオカメムシを所持している。

新 入 会 員

290.  
291.  
292.  
293.  
294.  
295.  
296.  
297.  
298.  
299.  
300.  
301.

302.  
303.  
304.  
305.  
306.  
307.



住 所 変 更

9.  
101.  
42  
206.  
232.  
233.  
26.  
283.  
253.  
99.



退 会 (申告分)

91. 

月 例 会 (於 大阪市立自然科学博物館)

☆ 才30 回例会 昭和35年10月1日

出席者：藤田国雄・林 夫・生谷義一・河野仁一郎・河野 洋・中川宗次郎・野村隆  
哉・大倉正文・沢田高平・芝田太一

- 大倉正文：大山産ゴムミン類標本の回覧

☆ 才31 会例会 昭和35年11月19日

出席者：藤田国雄・林 夫・生谷義一・河野 洋・成瀬善一郎・大倉正文・芝田太一

- 生谷義一：利尻島採集のカラーズライド映写
- 大倉正文：大山採集のカラーズライド映写

☆ 才32 回例会 昭和35年12月17日

出席者：藤田国雄・後藤光雄・林 夫・生谷義一・河野 洋・成瀬善一郎・大倉正文  
佐藤正孝・芝田太一

日本甲虫学会会則 1960年10月15日制定

1. 会名：本会は日本甲虫学会という。
2. 目的：本会は昆虫学の発達普及と会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. 事業：本会は次の事業を行う。
  - a. 機関誌「昆虫学評論」の発行。
  - b. 昆虫に関する臨時出版物の刊行。
  - c. 年1回の大会の他、随時採集会・講演会・座談会等の開催。
  - d. その他必要と認められる一切の事業。
4. 会員：本会の会員はつぎのとおりとする。
  - a. 賛助会員 年10,000円以上を納めるもの。
  - b. 正会員 年400円を納めるもの。
5. 役員：本会に幹事若干名をおく。幹事の互選により常任幹事若干名をおき、会務を分掌する。
6. 会計：本会の会計年度は歴年とする。
7. 入会：本会に入会を希望するものは、住所・氏名を記し、入会金50円および1年分の会費をそえ、申込むものとする。
8. 事務所：本会の事務所は当分の間下記におく。

神戸市東灘区御影町天神山46番地

付則：当分の間、才4条会員の中の「年400円を納めるもの」とは「昆虫学評論各1巻につき400円を納めるもの」、才7条入会の中の「1年分の会費」とは「昆虫学評論1巻分の会費」と、それぞれ解釈するものとする。

以上が新しい会則であります。付則について具体的に説明しますと、当会においては当分の間、機関誌「昆虫学評論」を年3回発行することにしてあります。巻号はある巻の1号・2号と次の巻の1号となるか、又はある巻の2号と次の巻の1号・2号になります。この様にしつてゆきますと2年で3巻分を発行しますので、年間の会費は平均して600円になります。

あとがき：本年もいよいよおしまつて師走のあわただしさが身近に感じられます。この号から会名もかわり内容もつと読みごたえのあるものと希つていましたが、展覧会や大会の跡片付けに日をとられ又最近とくに多くなつた雑用のため、ご覧のような旧態依然としたものになり申訳なく思つています。前号にて「思い出の数々」をお願いしましたが、原稿が集まりませんので次号に予定しています。これに限らずとどし原稿を寄せられるようお願いいたします。よき新年を迎えられるよう祈ります。(G)